

# 令和3年度第5回 旧国立駅舎運営連絡会議事録（要旨）

日 時：令和3年12月22日（水）19時00分～21時00分

場 所：国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ 会議室・オープンスペース

出席委員：磯部委員、磯前委員、落合委員、佐藤委員、鈴木委員、藤田委員、藤本委員、洪委員、宮崎委員

欠席委員：秋田委員、木村委員、中村委員

事務局：国立駅周辺整備課 関野課長、外立係長、菱沼主査、藤堂主任、後藤主任  
道路交通課整備係 和田係長、鈴木主事

旧国立駅舎まち案内所 磯貝チーフ

石塚デザイン設計事務所（旧国立駅舎東西広場等整備方針案作成支援業務委託受託者）濱本氏、若島氏

## 記録（要旨）

### 1. 開会あいさつ

鈴木会長より開会の挨拶があった。

### 2. 旧国立駅舎運営状況について

事務局より「【資料1】旧国立駅舎利活用レポート2021vol.8 10-11月度」のとおり報告した。

（鈴木会長）旧国立駅舎の今回の報告でも「子ども」「女性」「受刑者の方々」など国立市が掲げている“ソーシャルインクルージョン”のテーマに沿ったものを取り上げながら、商工関係者や一橋大学生が関与したイベントを実施したり、矢川のまちづくりを取り上げる、あるいは市南部への回遊の拠点となっていることがわかった。かつて自分が参加した“国立駅周辺まちづくり会議”の“まち育て部会”で、「駅前がこうなったらいいよね」と話していたことが実現されていることが感慨深い。

（藤田委員）昨年度の連絡会で「旧国立駅舎がこうなったらいいな」と皆で話し合っていたことが既に実現されている。

想像以上にいろいろな方に旧駅舎を使ってもらえていることがわかった。

### 3. 前回会議の振返り及び東西広場の活用について

事務局より「【資料2】前回会議振り返り東西広場活用報告」のとおり説明があった。

### 4. 旧国立駅舎周辺の検討について

<【報告】国立駅前ロータリーの今後の整備について>

- (事務局) ロータリーでのイベント実施を検討するにあたって道路交通課整備係の職員がバス、タクシーの交通事業者へ相談にいった。「資料3」のとおり、旧駅舎から大学通りまでのエリア全てを歩行者専用にする案を検討した。交通事業者からは「資料3」の案に理解を示してもらえたが、次のステップとして警察協議という課題が残っている。警察協議は難航が予想され、協議のポイントは「交通規制を実施するに値するイベントを具体的に提示できるか」だと考えている。
- (鈴木会長) 来年度、運営連絡会としてもロータリーでのイベントや使い方について話し合えていければと考えている。

<【報告】子育て支援施設について>

- (事務局) 子育て支援施設に関して進捗を報告する。JR東日本と用地交換のすえ、JR東日本が建設する賃貸住宅棟の一部を間借りして、子育て支援施設の設置を検討している。現在、整備方針案を策定中で来年1月からパブリックコメントを実施する予定である。

<【報告】ウォールメッセージについて>

佐藤委員より「ウォールメッセージ企画報告書」のとおり説明があった

- (藤本委員) 子どもは楽しそうにイベントに参加してくれたが、中高年男性は興味を示してくれなかった印象である。また、本格的に利用する公園というより、一時的に気軽に利用できる場所が少ないというのが切実だと感じた。
- (鈴木会長) 市のアンケートの対象ではない10代未満から意見を吸い上げることができたのはよかったと思う。

<旧国立駅舎東西広場等整備基本方針案について>

- (若島氏) 現在市は旧国立駅舎東西広場等整備基本方針案を策定中である。東西広場等はこれから設計に入っていくが、その前の前提条件として東西広場等がこうあるべきといったことを整備基本方針としてまとめることが目的である。そのために市民の皆様からご意見をいただくために実施したアンケートの結果の速報を報告する。

～資料4のとおり説明があった～

- (濱本氏) 続いて、旧国立駅舎東西広場等整備基本方針案について説明する。まだ確定ではなくて、これから連絡会委員の皆様からもご意見いただきながら策定していきたいと考えている。

～資料5のとおり説明があった～

- (磯部委員) 1点、質問がある。旧国立駅舎東西広場等整備基本方針案が「案」ではなくなり正式なものになるにはどのようなプロセスを経るのか。
- (事務局) 今後は内部組織である国立駅周辺整備庁内検討会で検討を進めるほか、外部の意見として、アンケートの結果・市内商工業者・しょうがいしゃの方々・都市計画やランドスケープの専門家などに意見を聞いて進めていきたいと考えている。その後、市の理事者と市議会に報告しパブリックコメントの実施を経て、令和4

年夏頃に正式なものになる予定である。

(礮部委員) 資料では2022年度には事業者選定と記載があるが、事業者選定の前に旧国立駅舎東西広場等整備基本方針が完成しているという認識でよいか。

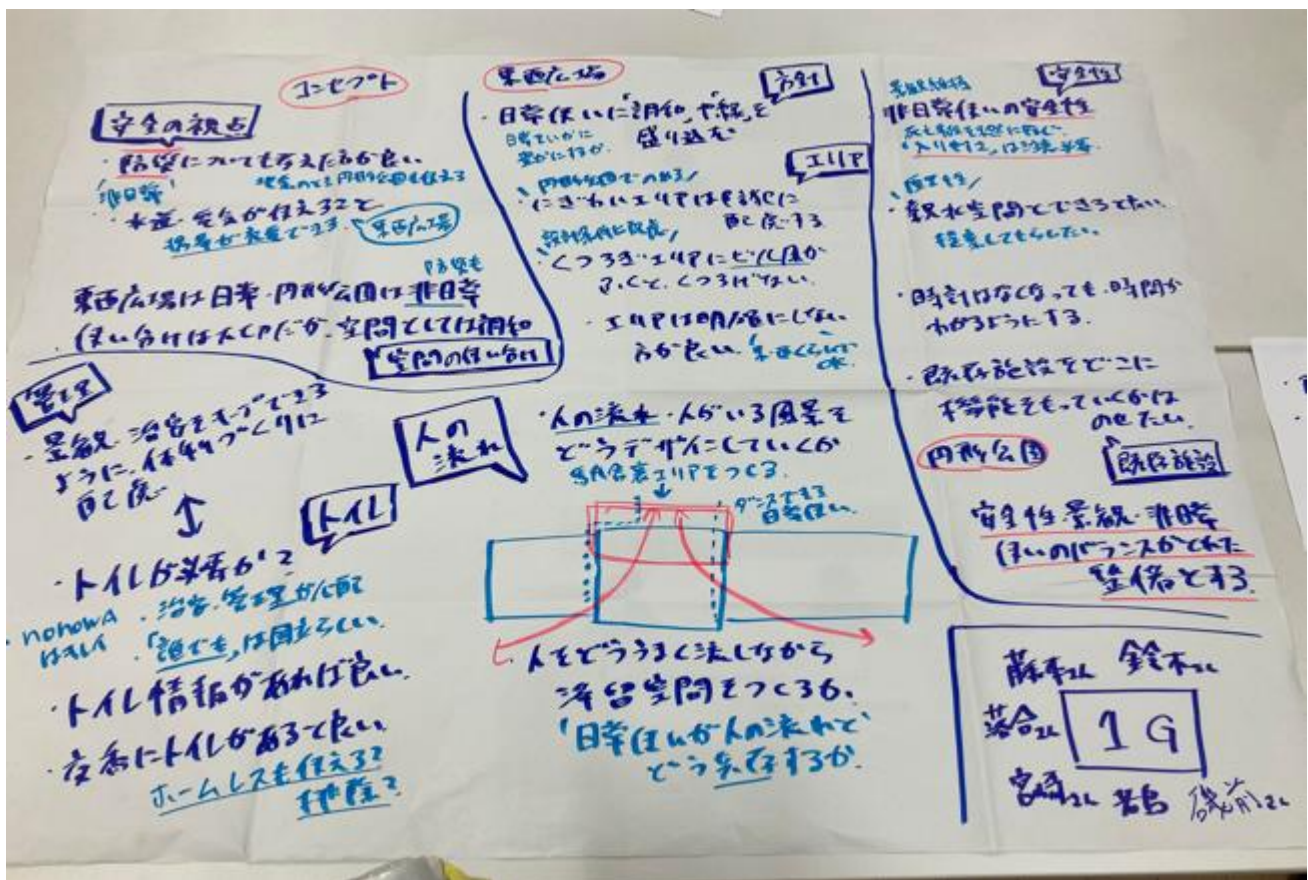
(事務局) そのとおりである。

(濱本氏) それでは、これから2グループに分かれて旧国立駅舎東西広場等整備基本方針案の内容について意見をいただきたい。

～2グループに分かれて旧国立駅舎東西広場等整備基本方針案の内容について議論した～

## 1G 記録

メンバー：鈴木会長、落合委員、藤本委員、礮前委員、宮崎委員



## 第2章 東西広場等の整備の基本的な考え方について

- 広場の視点においては、防災についても考えた方が良い
  - ・ 広場の視点においては、防災についても考えた方が良い
- 東西広場と円形公園は、日常、非日常と機能を明確に分けた方が良い
  - ・ 東西広場は日常的な利用、円形公園は非日常的な利用と明確に使い分けをした方が良い
  - ・ 東西広場と円形公園で明確に使い方が分かれていても、空間としては調和したものが望ましい

## 第3章 東西広場の整備の考え方について

## 整備基本方針について

- 東西広場では非日常利用は考えず、日常を豊かにすることを軸に考えることが重要である
  - ・東西広場は、いかに日常を豊かにするかとの視点が重要だと思う
  - ・「周辺との調和」や「緑の確保」の視点は、日常的な利用を基本として考えた方が良い

## 東西広場のゾーニングについて

- くつろぎ、にぎわいなど機能でエリアを分けずに一体的に日常使いの空間として捉えた方が良い
  - ・エリアは分けずに一体的な日常使いの空間として捉えた方が良い
- 旧国立駅舎の西側は、死角になっているところもあるので防犯面に配慮した方が良い
  - ・にぎわいエリアは死角になっているところもあるので、防犯に配慮した方が良い
- にぎわい創出の機能は円形公園があるので、東西広場では日常的な利用を軸に考えたい
  - ・にぎわいエリアでは非日常的な利用を想定しているのであれば、円形公園で足りるので日常的な利用を考えたい
- くつろぎエリアはビル風が強くなっているため、設計条件に盛り込んだ方が良い
  - ・くつろぎエリアについて、ビル風が強く、くつろげないのではないか
  - ・ビル風が強いなどの諸条件を、設計条件に盛り込んだ方が良い
- 現実的な人の動線を想定し、旧国立駅舎の裏側も日常使いの空間として考えるなど、人の流れと滞留空間をうまく共存させるような工夫が大切である
  - ・絵に書いてある動線が不自然である。現実的な人の流れを想定した上で、人がいる風景をどのようにデザインしていくか考えた方が良い
  - ・人の流れをうまくつくりながら、どのように滞留空間をつくるかが重要である
  - ・日常使いと人の流れを共存させたい
  - ・旧国立駅舎裏側も動線としてだけではなく、JRの建物側に鏡が貼られているのでダンスなど日常的な利用もできる。

## 空間構成要素の整備の方向性について

- 夜間にトイレが使える場所がないが、治安や管理に懸念がある。一方で、ホームレスなどトイレが必要な人を排除してしまうのか、しないのかの議論が必要
  - ・トイレは治安、管理面に懸念があり、つくらない方が良い
  - ・夜間にトイレが使える場所が現状ない
  - ・誰でも使えるトイレがあることは国立市らしい
  - ・インクルージョンの視点から、ホームレスが使えるトイレは必要なのではないか。ホームレスは排除するのか、しないのかについても議論が必要
- トイレの設置と治安や管理を両立する工夫を考えたい
  - ・トイレがなくても、どこにトイレがあるか情報がわかれば良い
  - ・交番にトイレがあれば良い
  - ・トイレをきれいに保てるよう、体制づくりが重要になる
- 水道・電源についてはイベントの視点だけでなく、災害時に利用できることも想定できると良い
  - ・東西広場では水道・電気をイベントのためだけではなく、災害時に携帯が充電できるなどインフラとして活用できると良い

## 第4章 円形公園の整備の考え方について

### 整備基本方針について

- 非日常的な利用のしやすさが危険に繋がることもあるが、安全性を重視するあまり景観を損ねてしまうのは避けたい
  - ・ 非日常的な利用のためにアクセスしやすくした時に、安全性の確保に課題がある
  - ・ 入りやすいことも大切であるが、非日常でなく、日常的でも入りやすい状態だと、安全面に課題がある
  - ・ 入りにくくするために無闇に柵などを設けると、景観を損ねてしまう
  - ・ 安全性・景観・非日常使いのバランスが取れた整備とすることは文言として盛り込みたい
- 非日常的な利用についてはイベントだけではなく災害時の視点も盛り込みたい
  - ・ 円形公園は非日常時の活用を想定しているとあるが、イベントだけではなく、災害時も非日常と捉えた方が良い
  - ・ 地震の時に東西広場は建物が近くガラスが落ちてくる可能性もあるので、円形公園が避難場所として使えると良い

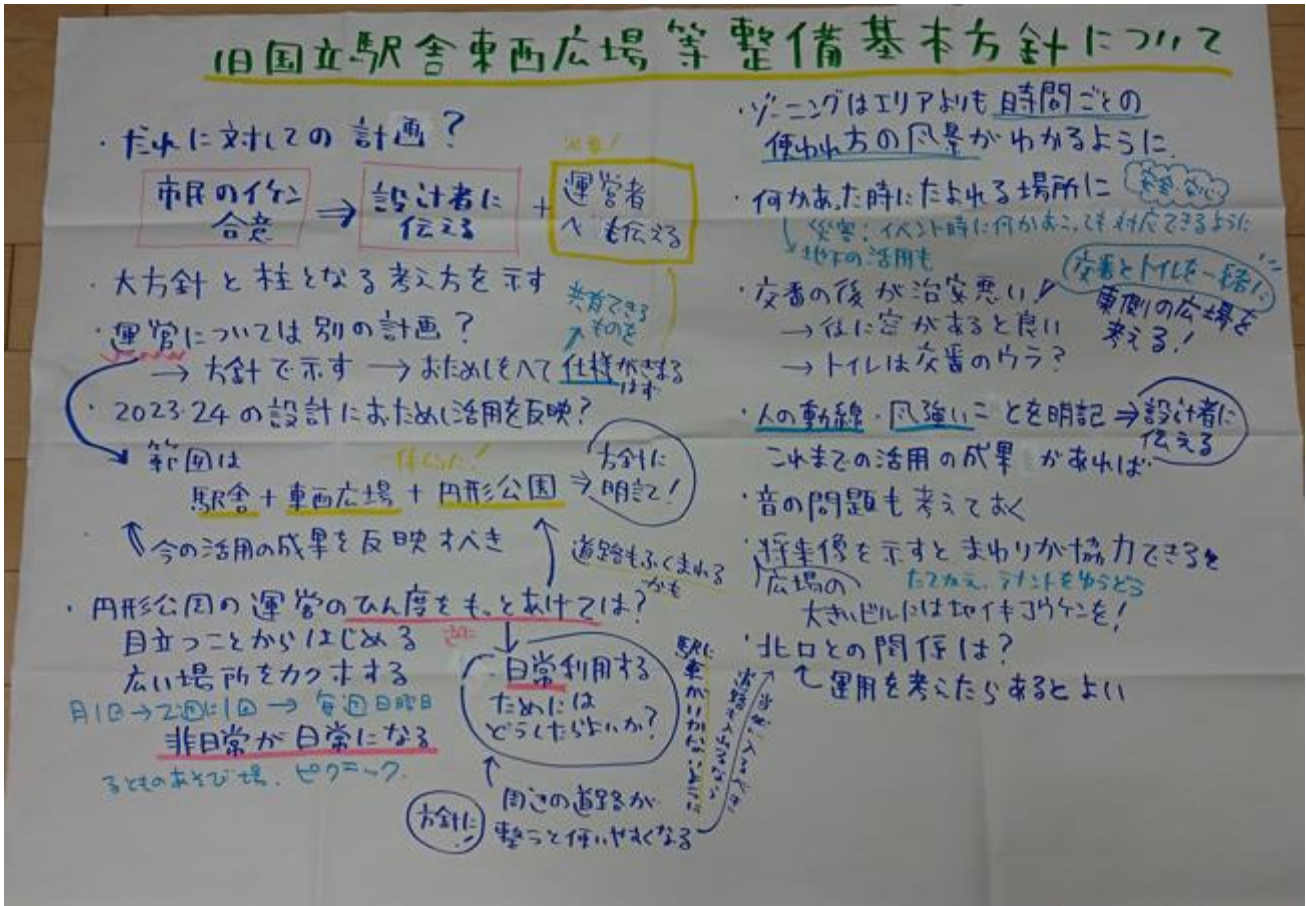
### 既存施設に関して

- 撤去するものの条件を明確に書き、機能を維持するものはその旨記載した方が良い
  - ・ 時計を撤去したとしても、機能としてどこかで時間がわかるようにできると良い
  - ・ 何を撤去して、何の機能を残していくのかは方針に載っていた方が良い
- 池を地下化すると親水空間ではなくなってしまうので、設計の提案要素として親水空間をどのようにするか、設計者に提案して欲しい
  - ・ 池は地下化して見えなくなってしまうが、歴史性を鑑みると、親水空間とできると良い
  - ・ 親水空間をどのようにするかは、設計者に提案していただきたい

### その他意見

- ・ アンケートの意見整理ではマイノリティの意見も反映できるよう、年齢ごとの意見の傾向などしっかり把握した方が良い
- ・ アンケート回答結果で、管理運営については市民が直接関わることには関心がないが、使う主体として誰も排除したくないと考えていることが国立市らしく、面白い
- ・ アンケートでは、イベント的な利用よりも、日常的な利用を大切にする傾向があるとわかって面白い

メンバー：洪副会長、磯部委員、佐藤委員、藤田委員



### 整備基本方針の位置づけについて

- 誰に對しての計画かを明確にした方が良い
  - ・ 誰に對しての計画が明確にできると良い
  - 市民だけでなく、設計者や運営者にも伝わるように
- 計画の大きな方針が伝わりやすようにする
  - ・ 大方針となる考え方を示すことができると良い
  - ・ 広場の将来像を示すと、建て替えやテナントの誘導の際に周りが協力できるようになる

### 第3章 東西広場の整備の考え方について

#### 東西広場のゾーニングについて

- エリアで分けるよりも、時間ごとの使われ方の風景がわかるようにできると良い
  - ・ ゾーニングはエリアに分けるよりも時間ごとの使われ方の風景がわかるようにしたい

#### 空間構成要素の整備の方向性について

- 実験を通じて得られた知見を計画に示しておけると良い
  - ・ 現実的な人の動線やビル風が強いことは設計者に伝えたほうが良い
  - ・ これまでの活用の成果があればまとめる
  - ・ 周辺住民への音の影響

- 災害など非常時に頼れるような場になると良い
  - ・何かあった時に頼れる場所になると良い
  - ・災害・イベント時に何か起こっても対応できるようにしたい
  - ・安心安全の視点で、特に多くの児童・生徒・学生が通学で行き交う場所であることも考慮して、災害時、人々が滞留したときなどに役立つよう、テントや備蓄品を貯蔵しておける場所を地下を活用して作ってほしい。
- 東側の広場を安全安心に使えるように、交番とトイレの位置関係や交番から裏側への視認性に配慮したい
  - ・交番の裏側の治安が悪い
  - ・交番の裏に窓があると良い。警視庁に、交番のデザインを、警察官がより広い視野で駅前広場等を見られるように、例えば扇形や半円形にできないかなど変更できないか働きかけて検討してもらうのがよいのではないか。国立市側が一部費用負担などをすれば乗ってくるかもしれない。
  - ・トイレは交番の裏側に設置できると良いのではないか
  - ・交番とトイレと一緒に整備できると良い
  - ・東側の広場が安全安心に使われるように考えたい

### 東西広場等の運営について

- 東西広場等の運営の方針があると、将来的に運営しやすい
  - ・運営については別の計画に定められると良い
  - ・現在お試しで活用している成果についても、運営の方針に反映できると良い
  - ・運営の仕様についても共有できるようにできると良い
  - ・2023年度、2024年度の設計にお試し活用の結果を反映できると良い
- 東西広場等の運営方針の範囲は駅舎、東西広場、円形公園、周辺道路とできると良い
  - ・運営の対象範囲は、駅舎、東西広場、円形公園を一体的に捉え、運営の方針に明記できると良い。
  - ・対象範囲には駅前広場の道路も含めても良いかもしれない
  - ・現在お試しで活用している成果についても、運営の方針に反映できると良い
- 北口との連携も考えていけると良い
  - ・運営においては北口との連携は？
- お試し活用の成果や市民意見については、設計者だけでなく運営者にも伝えたほうが良い
  - ・市民の意見を取り入れて合意したものを設計者だけでなく運営者にも伝えることが重要

### 円形公園の活用について

- 円形公園の活用を非日常から日常にしていきたい
  - ・円形公園を日常利用するためにはどうしたら良いか
  - ・月に1回の活用から2週に1回、毎週日曜日など、円形公園の運営頻度をもっと上げてはどうか
  - ・子どもの遊び場やピクニックなど、広い場所で目立つことから始めていきたい
- 駅周辺の道路を整備することで駅前広場の活用がしやすくなるので、より広範囲の考え方を整備基本方針に盛り込めると良い
  - ・円形公園の活用のためには、駅に車が行かないようにする必要がある
  - ・将来的にはロータリーへの車の乗り入れを、しょうがいのある人や高齢者などの利便性は維持しながらも、

限りなく少なくして、「人間（歩行者）中心の駅前」を実現できれば、円形公園へのアクセスもよくなり、活用方法も幅が広がるだろう。当面は、地下道を旧国立駅舎、富士見通り、旭通りの三方向から円形公園につないで、人々が円形公園に日常的に安全に行けるようにするなど工夫をこらしてほしい。

- ・周辺の道路が整うことで、円形公園が使いやすくなることを方針に盛り込めると良い

## 5. その他

（事務局）旧国立駅舎東西広場等整備基本方針案の内容についての意見で本日の会議で伝えきれなかったことがあったら事務局に連絡していただければ整備方針案に反映していく。次回の運営連絡会は3月頃の開催を予定している。

以上